

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年09月11日

計画の名称	九州南部地域における広域観光活性化計画												
計画の期間	平成30年度 ～ 令和04年度（5年間）										重点配分対象の該当		
交付対象	宮崎県												
計画の目標	九州南部地域（宮崎県、鹿児島県）においては、宮崎空港や鹿児島空港の空ルート、宮崎港、油津港、鹿児島港や志布志港の海ルートを経て、鉄道や高速道路等の幹線道路を利用した「温泉アイランド九州広域観光周遊ルート」等の観光周遊ルートが形成されており、県内外から多くの観光客が訪れている。また、大型クルーズ船の九州への寄港回数が増えたことにより、外国人観光客を含めた圏域外利用者が訪れている。 東九州自動車道（清武南IC～鹿屋串良JCT）の段階的な開通と併せて既存交通網と連携強化を図ることで、九州南部地域の更なる観光客増加が期待されるなか、温暖な気候を活かしたスポーツキャンプの誘致による観光推進など、食・自然・文化・歴史など各地域の特徴を活かした滞在型観光にも力を入れているところである。 ユネスコパークに登録されている「綾地域」や日本ジオパークに登録されている「霧島地域」などの雄大な自然景観を有している九州南部地域にて、周辺の温泉や登山、歴史散策といった滞在型観光の魅力情報を発信し、関係自治体や地元観光協会等と連携した、これら景勝地等へのルート整備を行うことで観光宿泊客数を増大させ、観光活性化を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	1,813	A	1,813	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A＋B＋C＋D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H28	H32末	H34末
1	【宮崎県・鹿児島県 共通目標】 観光宿泊客数415万人（H28）から437万人（H34）に増加（22万人（5.3％）の増加）			
	【鹿児島県・宮崎県 共通目標】観光宿泊客数 （観光宿泊客数の増加割合）＝（評価時点の観光宿泊客数－H28の年間観光宿泊客数）／（H28の年間観光宿泊客数）	415万人	428万人	437万人
2	【宮崎県 単独目標】 観光宿泊客数245万人（H28）から252万人（H34）に増加（7万人（2.9％）の増加）			
	【宮崎県 単独目標】観光宿泊客数（宮崎県南部地域：宮崎市、小林市、串間市、綾町） （観光宿泊客数の増加割合）＝（評価時点の観光宿泊客数－H28の年間観光宿泊客数）／（H28の年間観光宿泊客数）	245万人	252万人	257万人
3	【宮崎県 単独目標】 宮崎県圏域（拠点施設）における観光入込客数92万人（H28）から97万人（H34）に増加（5万人（5.4％）の増加）			
	【宮崎県 単独目標】観光入込客数（拠点施設） （観光入込客数の増加割合）＝（評価時点の観光入込客数－H28の年間観光入込客数）／（H28の年間観光入込客数）	92万人	95万人	97万人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	○	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
○鹿児島県と連携 ○その他事項については、備考-1に記載。												

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
広域連携事業	A11-001	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	（主）宮崎須木線・小野 工区	現道拡幅 L=1.5km	小林市	■	■	■	■	■	944		-	
	A11-002	道路	一般	宮崎県	直接	宮崎県	都道府 県道	改築	（主）宮崎須木線・川中 工区	現道拡幅 L=1.7km	綾町	■	■	■	■	■	850		-	
	A11-003	提案	一般	宮崎県	直接	宮崎県	推進事 業	推進事 業	広域連携推進事業	広域観光PR	宮崎市他		■	■	■	■	19		-	
		道路整備（A11-001、A11-002）にあわせ、拠点施設に人を呼び込むためのツアー造成やプロモーション等の取組みを行い、当該アクセス道路の活用を図る。																		
											小計							1,813		
											合計							1,813		

事後評価		
○事後評価の実施体制、実施時期		
事後評価の実施体制 宮崎県県土整備部にて評価を実施 学識経験者等の意見聴取	事後評価の実施時期	
	令和7年3月	
	公表の方法	
	宮崎県ホームページに掲載	
○事業効果の発現状況		
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・限られた予算の中、事業箇所により優先順位をつけ予算配分し道路整備を進めた事で観光拠点へのアクセス性が向上し、令和2年から令和5年には観光宿泊客数が265万人から386万人へ増加するなど、観光振興による広域的・地域活性化へ寄与したと考えられる 【本事業完成で発現される効果】 ・A11-001：（主）宮崎須木線・小野工区及びA11-002：（主）宮崎須木線・川中工区の整備により線形不良区間を解消したことで、すきむらんどから酒泉の杜までのアクセス時間が約3分短縮され、周遊効率性の向上が図られた。 出典：宮崎県観光入込客統計調査結果	
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）		
○特記事項（今後の方針等）		
・未完了の事業については、本計画完了後も引き続き社会資本整備総合交付金等を活用し進捗が遅れた事業箇所も計画的に進め、広域的・地域活性化を図る。 【未完了事業】：A11-001、A11-002		

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	【宮崎県・鹿児島県 共通目標】 観光宿泊客数 4 1 5 万人（H28）から 4 3 7 万人（H34）に増加 （ 2 2 万人（ 5 . 3 % ）の増加）数		
	最 終 目 標 値	437万人	宮崎県及び鹿児島県における観光宿泊客数は、最終実績値は386万人となり最終目標値は達成できなかったが、R2年末時点の中間評価265万人よりも121万人（45%）増加した。最終目標値が達成できなかった理由としては、新型コロナウイルス感染症が蔓延したことが要因として考えられる。 出典：宮崎県観光入込客統計調査結果（令和5年）
	最 終 実 績 値	386万人	
2	【宮崎県 単独目標】 観光宿泊客数 2 4 5 万人（H28）から 2 5 7 万人（H34）に増加 （ 1 2 万人（ 4 . 9 % ）の増加）		
	最 終 目 標 値	257万人	宮崎市、小林市、串間市、綾町における観光宿泊客数は、最終実績値は234万人となり最終目標値は達成できなかったが、R2年末時点の中間評価156万人より78万人(50%)増加した。最終目標値が達成できなかった理由としては、新型コロナウイルス感染症が蔓延したことが要因として考えられる。 出典：宮崎県観光入込客統計調査結果（令和5年）
	最 終 実 績 値	234万人	
3	【宮崎県 単独目標】 宮崎県圏域（拠点施設）における観光入込客数 9 2 万人（H28）から 9 7 万人（H34）に増加 （ 5 万人（ 5 . 4 % ）の増加）		
	最 終 目 標 値	97万人	宮崎県圏域（拠点施設）における観光入込客数は、最終実績値は34万人となり最終目標値は達成できなかったが、R2年末時点の中間評価21万人より13万人(61%)増加した。最終目標値が達成できなかった理由としては、新型コロナウイルス感染症が蔓延したことが要因として考えられる。 出典：宮崎県観光入込客統計調査結果（令和5年） 、宮崎県都市計画課資料（令和5年）
	最 終 実 績 値	34万人	